令和元年度放射線教育フォーラム第3回勉強会案内

【開催趣旨】

　正しい科学的理解、リスクコミュニケーション、対話的な学びなど、いま、放射線教育には様々な取り組みが要求されており、どれ一つとっても一筋縄ではいかない問題を抱えています。今回の勉強会は、そうした一筋縄ではいかない、手強い三つの課題を取り上げ、固定観念に縛られることなく、放射線教育について幅広く考える機会としたいです。講演後に総合討論の場を設けましたので、参加者を交えた活発な討論を期待しています。

【開催概要】

　日　時　　令和２年３月１日(日)　１３：００～１６：５０

　会　場　　東京慈恵会医科大学 高木２号館南講堂（港区西新橋3-25-8）

主　催　　ＮＰＯ法人放射線教育フォーラム

共　催　　東京慈恵会医科大学 アイソトープ実験研究施設

参加費　 資料代として1,000円　　懇親会参加費：1,500円

【プログラム】

13:00　開会挨拶　　　　　　放射線教育フォーラム理事長　　長谷川　圀彦

13:10 講演１　　ＤＮＡを知り、自分が放射線を怖がるわけを知る

― 進化・突然変異育種・ゲノム編集作物・ガン —

　　　名古屋経済大学市邨高校　　　　　　　　　大津　浩一

14:00　講演２　　認知の齟齬と対話による相互理解

― 放射線は嫌い、でもＣＴ検査は受けるよね ―

           　　　東京慈恵会医科大学 臨床医学研究所　　　 吉澤　幸夫

　　　　　　　　　　　　　　　　　休憩

15:10 講演３　　科学議論における市民の役割

ＮＰＯ法人 知的人材ネットワーク あいんしゅたいん

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　坂東　昌子

16:00 総合討論

16:50　閉会

懇親会（17:00～18:30）　　東京慈恵会医科大学高木２号館南講堂

【講演要旨】

講演１　　ＤＮＡを知り、自分が放射線を怖がるわけを知る

― 進化・突然変異育種・ゲノム編集作物・ガン —

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　大津　浩一

たいていの人は放射線を怖がる。また、怖がるべきである。ただ、怖がりすぎても怖がらなさ過ぎてもいけない。進化・突然変異育種・ゲノム編集作物・ガンを通してDNAをいろいろな角度から眺めれば、正しく怖がる理由を持てるのではないかと思うようになった。

講演２　　認知の齟齬と対話による相互理解

― 放射線は嫌い、でもＣＴ検査は受けるよね ―

           　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　吉澤　幸夫

コンフリクト・マネジメントは、紛争の解決だけでなく幅広い分野に応用できるスキルである。例えば、児童の問題行動の原因とされる心理的葛藤もコンフリクトの一種である。教育コンフリクトにはこのように顕在化するものと、気づかれないまま潜在化するものが存在する。コンフリクトの存在下では、科学的な知識を語っても聴衆に拒絶されてしまう。お互い見えている世界が違うことを理解することが、公衆に受け入れてもらう第一歩となる。

講演３　　科学議論における市民の役割

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　坂東　昌子

３・１１以後、放射線の生体影響について極端に評価が分かれ、風評被害とかトランスサイエンスという言葉が飛び交った。個別科学の深化の時代だった2０世紀から、環境、健康など分野横断的な課題に取り組む時代なのに、それに応じた科学界の体制が希薄なことを痛感した。このギャップをつなぐのは、現代情報社会の中で育った市民であることを、様々な取り組みを通じて痛感した。この経験を皆さんと共有したい。